

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			子どもが活動に参加しやすいスペースを作るように心掛けている。	保護者と子どもが使用する出入りに安全面の課題がある。 保護者と話をするスペースの変更や保護者と子どもが同じ出入り口を使うなど改善していきたい。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			子ども1人1人に丁寧に対応できる配置にしている。	参観日などは、その場でスタッフとお話できるため、参観できる機会も増やしていきたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリーの配慮が適切になされているか	○			ぐんぐんキッズは「自閉スペクトラム症（ASD）」のお子さん限定の事業所であるため、バリアフリーの配慮が必要な利用者さんがおらず、今のような設備にしている。	ASD診断にプラスして配慮の必要なお子さんが利用されることになった場合には、しっかり対応していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			保護者に記入していただいた希望調査をもとに面談を行い、どのような支援計画にするかを決めている。週1日（または隔週）での利用・学校が終わってから少し疲れている場合もあるため、お子さんが意味を理解して無理なく取り組める目標にするよう意識している。	短い期間での目標に対しての評価も、様子がよりお伝えできるようなものを作成していきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			事業所評価を実施し、保護者の意向を把握し、改善するように努めている。	事業所評価はもちろん、普段から保護者の意見に耳を傾け改善につなげていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページで公開している。	今後も同様にホームページで掲載する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			外部コンサルを受け、いただいたアドバイスをもとに療育スタッフのスキルアップを行っている。	今後も定期的に行う。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			法人で行っているスタッフ勉強会に参加したり、夜間講座などの参加を促している。	引き続き参加していく。
9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			希望調査をもとに保護者のニーズを聞き取り、日頃の子どもの姿をインフォーマルなアセスメントの視点で観察し、計画を作成するように心掛けている。	今後も同様な方法で行う。	

	チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			年度始めに共通の評価キットを用いてアセスメントを行い子どもの現状の把握を行っている。	今後も同様な方法で行い、方略の根拠となるように活用していく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			朝のミーティングで活動プログラムについて話し合う時間を設けている。  個別の学習課題については、担当の支援者が作成し、必要に応じて支援の工夫をチームで考えるようにしている。	今後も1人の視点に偏らないように、チームで考えていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			子どもが意味を持って取り組める活動プログラムになるようにしている。  安心してできる環境が学びやすいお子さんについては、同じ活動プログラムを続ける場合もある。	今後も同様の方法で行う。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			ぐんぐんキッズは平日の放課後のみであるが、子どものニーズや状態に合わせて、子どもが意欲的に参加できるように支援を入れている。  また夏休み期間は3時間あるため通常の療育では体験できない内容を取り入れるなど工夫を行っている。	今後も同様の方法で行う。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			先生とワーク、一人でワーク、グループ活動等の活動をそれぞれ計画している。	今後も同様の方法で行う。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			朝のミーティングで活動の内容やスタッフの動きの確認を行い準備に移るようにしている。 療育の15分前には最終の打合せの時間を設け、変更がないかを確認している。	今後も同様の方法で行う。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			当日は勤務終了時間が近いため、スタッフが各々記録を書く時間としている。 翌日の朝のミーティングで、記入していた記録をもとに支援の振り返りを行っている。	今後も同様の方法で行う。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			取り組んだ課題の内容、ねらい、取り組んだ本人の様子、どうしてそのような行動を取ったのかの根拠、次回どのように工夫するかなどを記入し、次回の計画を立てるようにしている。	支援者によって書き方にバラつきが出すぎないように、スタッフ間で記録の書き方の統一を図っていきたい。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			面談をもとに作成した個別支援計画と異なる保護者のニーズや子どものニーズが出てきた際には、相談を行い変更するなど見直すようにしている。	今後も同様の方法で行う。	

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係 機関 や 保 護 者 と の 連 携	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○			ぐんぐんキッズは「自閉スペクトラム症 (ASD)」のお子さん限定の事業所であるため、ガイドラインの総則の基本活動を取り入れつつ、特性に合わせた支援を心掛けている。	今後も同様の方法で行う。
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			サービス管理責任者が行っているが、必要に応じてその子どもを担当しているスタッフが参加することもある。	今後も必要に応じて、管理者、担当のスタッフが行う。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			市内在住の一年生は、情報共有シートを用いて、情報提供、情報共有の機会が必ずある。親を通してはあがるが、行事予定や、下校時刻の連絡等がある。	今後も同様の方法で行う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			医療的ケアが必要と思われる児童はいない。 診断書、発達検査結果などは、親を通してではあるが、情報提供いただいている。	今後医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、連絡体制を整える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			同法人内の児発からの受け入れに限っているため、情報共有のため引き継ぎ作業は早い段階から行える。就学前の段階で、在籍園と情報共有した資料も引き継げる。	今後も同様の方法で行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			他の放課後等デイサービスへ移行される場合も、個別支援計画計画と評価、特性シートなどを通して情報提供することができる。	今後もぐんぐんキッズを卒業して他の事業所を利用される際は同様の方法で情報提供を行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			市内の児発、放デイが会しての合同研修があり、代表者が参加している。	今後も同様にを行う。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		短い療育時間の中で個別支援計画に基づいて取り組んでいるため、ぐんぐんキッズでは定型発達の子とも交流する機会を設けていない。	今後も子どものニーズに応じて取り組む。
27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	○			代表者が参加している。	今後も同様に参加していく。	

		チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			療育お迎え時にお話する時間を設け、連絡帳から子どもの様子を聞き取ったり、療育で見えた姿から、どんな工夫があるかなどをお伝えするようにしている。	お話する時間がスタッフによってばらつきにくいようにスタッフ1人1人が時間の配分を意識していく。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			正規のペアレントトレーニングとは異なるが、療育時間を使って、保護者向けの勉強会を行っている。保護者同士が意見交換できる機会もある。	今後も同様に取り組んでいく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			療育お迎えの時に、療育での支援についてフィードバックする時間を設けている。  重要事項説明書で利用者負担等については説明を行っている。	不安なく利用していただくために、日々の連絡においても十分な説明を行っていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			療育お迎え時にお話する時間を設けている。相談用紙を用意しており、記入された保護者とは、その件についてお話する機会を作っている。	お話の時間に担当したスタッフが療育を抜けられない場合には、他のスタッフが説明したり、連絡帳についてお話を聞きとったり、療育の様子を十分お伝えすることができなかった場合はLINEでお伝えするなど、スタッフ個々の時間の使い方について意識していくことを検討していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			運営母体が、親の会であるため、積極的利用を呼びかけている。	今後も利用の呼びかけを行ったり、保護者が繋がれるように座談会の機会も検討したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			ぐんぐんキッズの玄関に苦情・要望受付用紙と投函場所を設けており、それをもとに改善に当たれるような体制にしている。	LINEや出入り口への貼りだし等で、こういう風に点検して、こういう風に改善しましたと周知もしていきたいと考えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			ホームページに会報や行事予定など掲載している。オフィシャルラインなども活用し、タイムリーにやり取りしている。	今後も同様の方法で行う。
	35	個人情報に十分注意しているか	○			利用者ファイルなど個人情報が多分に含まれている書類は鍵付きロッカーに保存するなど注意をしている。	名札や連絡帳など同単位外の利用者の情報が療育室内にないよう、工夫を取り入れていきます。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			子どもとはコミュニケーションを補うためのツールも積極的に取り入れている。  ご不明な点はないか、保護者がお伝えしたいことはスタッフの解釈であっているかを確認できるように努め、情報の共有や伝達をしている。	今後も情報を共有する際にズレがないか確認していく。

	チェック項目	はい	いいえ	どちらとも いえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
非常時等の 対応	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			法人単位で、フリーマーケットなどを開催し、地域住民にも敷地に足を踏み入れていただき、行事参加していただく機会がある。	今後も機会を作っていく。	
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			緊急時・非常災害時の対策については、重要事項説明書に記載しており、お渡しする際に説明している。  感染症などの対応や緊急時の対応などの資料につきましては、ぐんぐんキッズの玄関に設置しており周知できる体制にしている。	今後も同様の方法で行っていき、より利用者に周知していくことを心掛ける。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			非常災害に備え防災マニュアルを用意しており、発生した際の動きを確認できるようにしている。	訓練については不定期での取り組みとなっているため、取り組む月を決めて行っていく。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待防止の研修についての資料があるので確認できるようにしている。 虐待の可能性がある場合には書類を作成し管理している。	スタッフ全体で意識を高め、可能性がある場合は報告できるようにしていく。	
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか				○	身体拘束等の適正化に関する指針により、当法人では原則として身体拘束は行わない。運営規程などにも身体拘束に関する内容の記載を行っているが、ぐんぐんキッズは「自閉スペクトラム症（ASD）」のお子さん限定の事業所であるため、身体拘束が必要な状況がない。	個別支援計画に記載はしていないが、必要に応じて保護者と相談していく。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○				利用者ファイルにアレルギーがあるかを問う欄があり、保護者に記入していただいているので、把握している。 必要な場合は、保護者に医師からどのように聞いているかを確認するようにしている。	今後も利用者ファイルを確認して把握できるようにする。
43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○				保護者の方からの苦情や、苦情とまでは至ってはいないがスタッフが不備を感じた点についてはヒヤリハットを作成し、スタッフ全体に原因と改善策を共有して、物理的に改善したり意識して気をつけるようにしたりと改善に努めている。	今後も同様の方法で行っていく。	